

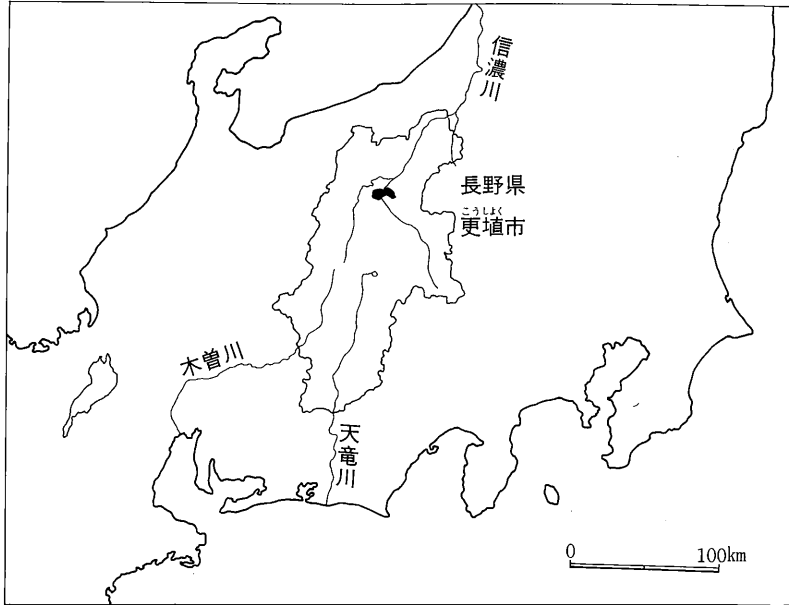
屋代遺跡群

馬口遺跡 III

—長野県屋代高等学校プール等建設に伴う発掘調査報告書—

1988

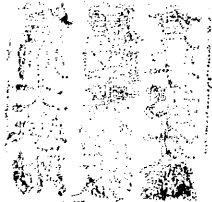
更埴市教育委員会
更埴市遺跡調査会



目 次 例 言

| | |
|-----------|----|
| 目次 | 例言 |
| I 調査の概要 | 1 |
| II 調査の経過 | 2 |
| III 遺構と遺物 | 5 |
| IV まとめ | 10 |
| 図 版 | 12 |

写真図版



- 1 本書は、昭和62年10月12日から11月14日の間に実施した長野県屋代高等学校プール等建設に先だって実施した馬口遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書の編集及び執筆は、調査担当者である佐藤信之が行った。
- 3 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて更埴市教育委員会に保管されている。
- 4 本調査関係資料には“BGP”と略記されている。

I 調査の概要

- 1 発掘調査委託者 長野県屋代高等学校
- 2 発掘調査受託者 更埴市遺跡調査会
- 3 発掘調査実施者 更埴市教育委員会・更埴市遺跡調査会
- 4 発掘調査場所及
び土地の所有者 更埴市大字屋代1,000番地
長野県屋代高等学校
- 5 発掘調査遺跡名 屋代遺跡群馬口遺跡P地点（市台帳No.31-4）
- 6 調査の目的 公共事業 屋代高等学校プール等建設に伴う当該遺跡の記録保存
- 7 調査期間 昭和62年10月12日～同年11月14日
- 8 調査面積 1,400㎡以上
- 9 調査方法 全面発掘調査
- 10 調査費用 費用総額3,516,000円（全額委託者負担）
- 11 調査会の構成
 - 会 長 安藤 敏 更埴市教育委員会教育長
 - 理 事 田沢佑一 更埴市議会議員
 - 佐藤穂次 更埴市教育委員会教育委員長
 - 寺沢脩七 更埴市区長会長
 - 相沢正幸 更埴市文化財審議会長
 - 寺沢政男 更埴市役所総務課長
 - 監 事 武井隆義 更埴市社会教育委員会委員長
 - 関 京子 更埴市役所会計課長
 - 幹 事 武井豊茂 更埴市教育委員会社会教育課長
 - 山崎文夫 更埴市教育委員会社会教育係長
 - 矢島宏雄 更埴市教育委員会社会教育主事
 - 佐藤信之 更埴市教育委員会社会教育課主事
- 12 調査団の構成
 - 団 長 安藤 敏
 - 調査担当者 佐藤信之
 - 調 査 員 山根洋子
 - 調査参加者 青木美知子 市川睦雄 春日幸枝 久保啓子 小林昌子 小林芳白
 - 坂口城子 高野貞子 羽場静子 村山 豊
 - 事 務 局 武井豊茂 山崎文夫 矢島宏雄 佐藤信之 田中啓子 山根洋子(社会教育課)



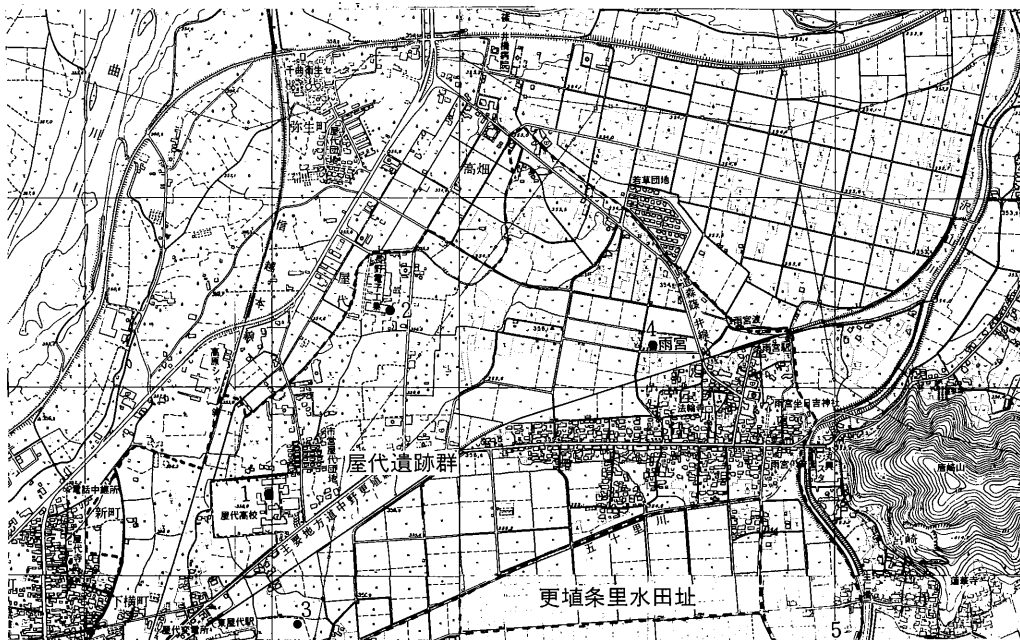
II 調査の経過

昭和62年7月1日、長野県屋代高等学校より、昨年度に続きプールと2ヶ所の自転車置場の建設が予定されており、調査計画書を作成してほしいとの依頼があった。7月23日、調査の実施は工事等の関係から10月でなければできないとの連絡があり、市遺跡調査会が対応することを通知すると共に、調査計画書の作成に入った。8月19日、県文化課、屋代高等学校、市教委により協議が行われ、仮設の自転車置場については、調査を行わないこととし、プールと自転車置場1ヶ所の約1,400㎡について費用4,395,000円で調査を実施することとなった。

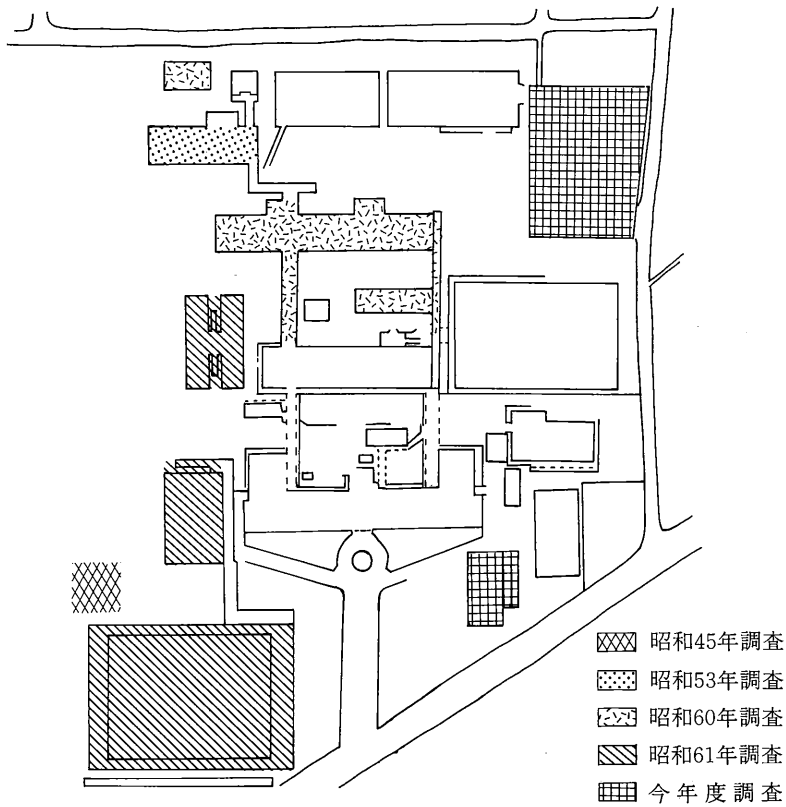
9月22日屋代高等学校と市遺跡調査会との間に、発掘調査委託契約が締結され、10月9日より重機による表土剥ぎを行い、10月12日より作業員が入り、調査を開始した。調査によって検出された遺構は水田址であり、畦畔も僅かであった。したがって重機により遺構検出面直上まで掘り下げることができ、11月14日に調査を終了した。調査日数の減少により、調査費用も減額となったため12月14日に委託契約の変更を行った。

経過

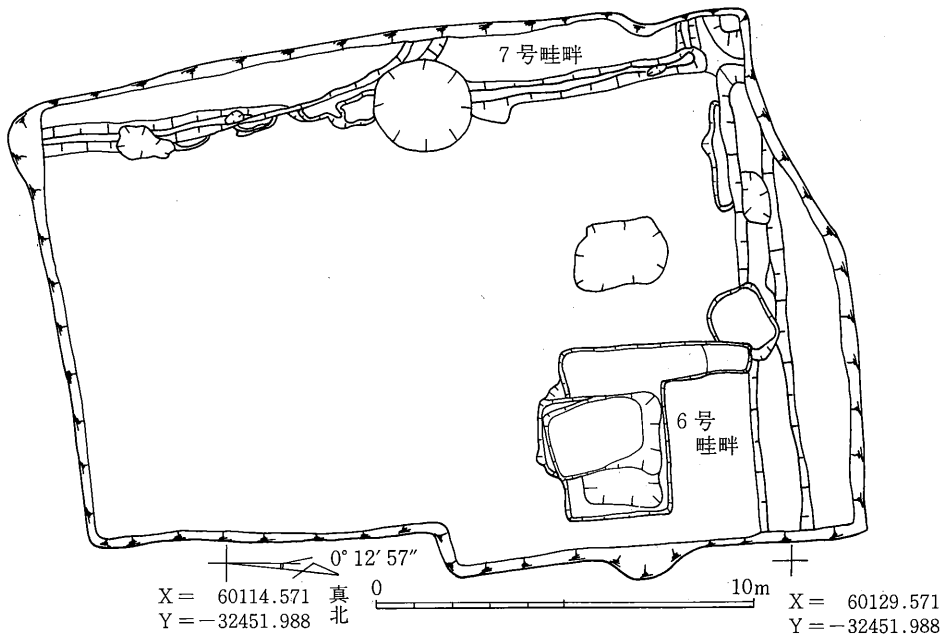
| | |
|--------|-------------------------------------|
| 10月12日 | 自転車置場より作業開始 畦畔2本を検出 |
| 10月13日 | プール部分重機で表土剥ぎ |
| 10月16日 | 遣り方設定、実測開始 |
| 10月20日 | 自転車置場の調査終了 機材をプール部分へ移す |
| 10月22日 | プール部分の遣り方設定 8本目の畦畔を検出 |
| 11月9日 | プール部分南側の表土剥ぎ |
| 11月12日 | 水田面の検出終了、全景 写真撮影後、水田面にト レンチ設定 |
| 11月14日 | 現場における作業終了 |
| 11月15日 | 重機による埋戻し |



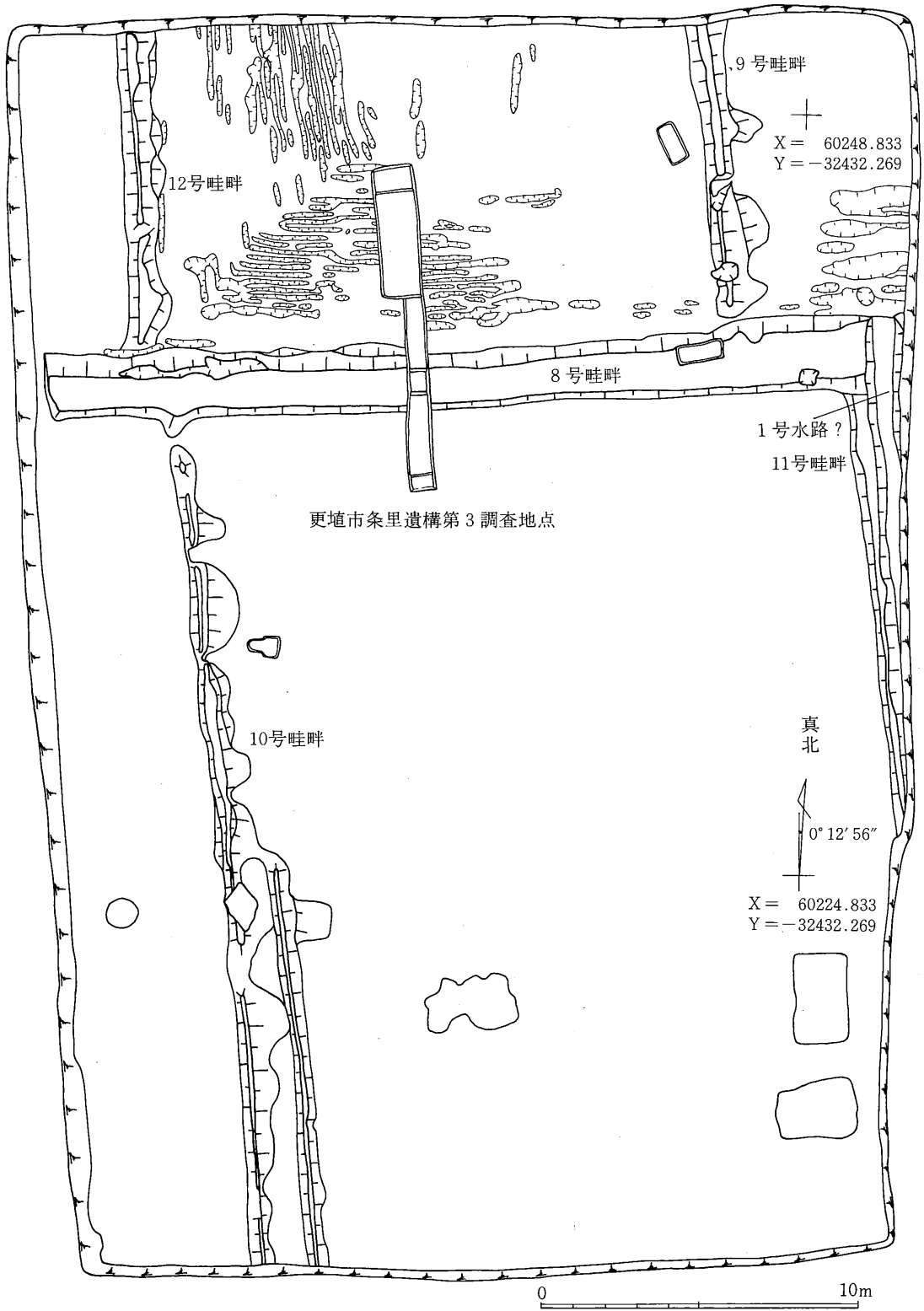
1.馬口遺跡 2.城ノ内遺跡 3.大塚遺跡 4.下条・灰塚遺跡 5.生仁遺跡
第1図 遺跡位置図 (1/20,000)



第2図 馬口遺跡調査地点



第3図 自転車置場遺構全体図



第4図 プール部分遺構全体図

III 遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は水田址であり、7本の畦畔と水路と思われる1本の溝であった。また水田址を切り込んで近世以降と思われる方形の掘り込み1ヶ所も検出された。

6号畦畔

自転車置場北側で検出された畦畔で、N-86°-E方向に延びている。断面は台形を呈しており、基部で1.4m、上端面で60cm、水田面からの高さは24cmを計ることができる。灰褐色のやや粘質の土で作られており、下部は両側の水田土壌に覆われている。畦畔を構築する際、下部への掘り込みは行っておらず、水田面同様黒褐色粘質土が続いている。

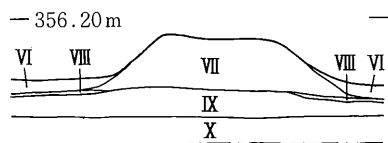
調査区北西の隅の部分に1ヶ所、70cmほど畦畔が切れる部分があり、溝状の痕跡を僅かに残しており、水田への配水施設と考えられる。

畦畔の盛土中からは遺物の出土はない。

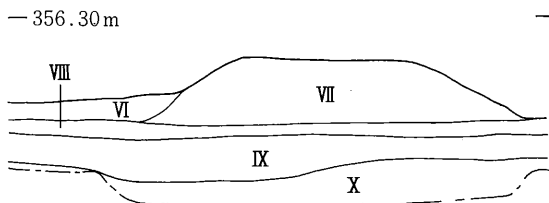
7号畦畔

自転車置場部分より、6号畦畔に直交するように検出された。N-5°-Wの方向に延びており、幅80cm、水田面よりの高さ20cmを計ることができる。断面形は偏平なカマボコ状を呈し、灰

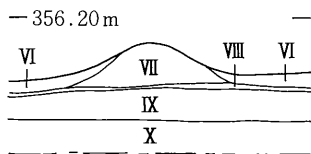
6号畦畔



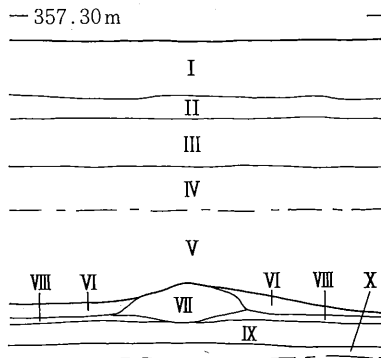
8号畦畔



7号畦畔



9号畦畔



- | | |
|---------------|--------------|
| I 山碎 | VII 灰褐色粘土 |
| II 灰色粘土(水田面) | VIII 茶褐色土 |
| III 暗灰色粘質土 | VIII' 茶褐色粘質土 |
| IV 灰褐色砂 | IX 黒褐色粘質土 |
| V 暗灰色砂 | X 黄褐色粘質土 |
| VI 灰色粘土(水田址面) | |

第5図 畦畔断面図

褐色土で構築されている。6号畦畔と接する部分は、幅70cmほどが切れている。

畦畔の盛土中からは遺物の出土はない。

8号畦畔

プール部分より検出された畦畔で、N-87°-Eの方向に延びている。断面は台形を呈しており、基部で2m、上端面で90cm、水田面からの高さは南側で25cm、北側では30cm前後を計ることができる。畦畔のほぼ中央部には、昭和38年の更埴条里遺構の調査の際、馬口地区第3地点として設定されたトレンチがある。灰褐色の粘質土で作られており下部への掘り込みなどはない。西側で切れるのは、後の水路によって破壊されているためで、調査区外へと続くものと思われる。また東側は、水田に付属すると思われる水路によって、上部20cmほどが切られている。この水路はなだらかな南傾斜を示しており、西側には11号畦畔が沿っている。

畦畔の盛土中からの遺物出土はない。

9号畦畔

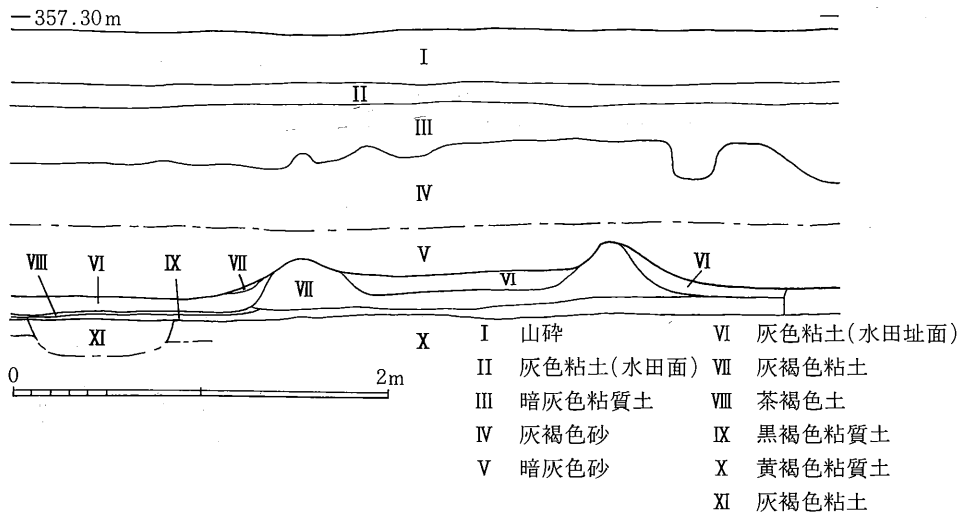
8号畦畔から北に延びる畦畔として検出された。N-5°-Wの方向にあり、幅70cm、水田面からの高さ15cmほどを計ることができる。断面形はカマボコ状を呈しているが、水田土壌である灰色粘土が畦畔を覆っているため、表面からの観察では明確でない。12号畦畔もほぼ同様の形状、規模を呈しており、共に8号畦畔と接する部分は切れている。

畦畔の盛土中より遺物は出土していない。

10号畦畔

8号畦畔の南側より検出された畦畔で、N-6°-Wの方向に延びている。8号畦畔より南側へ14mほど進んだ地点から、2本の畦畔が約1.8mほどの間隔で並列され調査区外へと続く。断面形は西側の畦畔が三角形であるのに対して、東側の畦畔はカマボコ状を呈している。共に基部幅が

10号畦畔



第6図 畦畔断面図

60cmほどで、高さは15～20cmほどである。他の畦畔同様灰褐色粘土層によって作られており、2本の畦畔の間は水田面が高くなっている。畦畔の東側50cmほどには幅80cm、深さ20cmほどの溝状の掘り込みがみられるが、水田土壌の下部であり、水田址には関係しないものと思われる。

畦畔の盛土中より遺物は出土されていない。

水田面

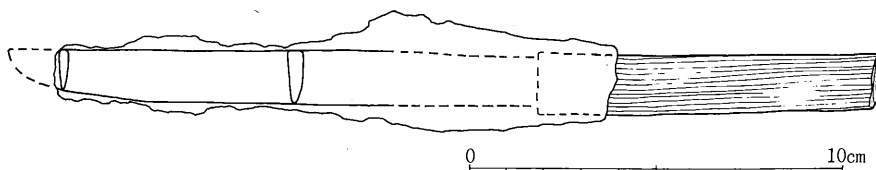
調査地点がプール部分と自転車置場と2ヶ所あり、両者には南北に約80mほどの間隔がある。自転車置場の水田面は標高355.9m前後となるのに対して、プール部分では8号畦畔をはさんで南側が355.8m前後、北側が355.7mとしだいに低くなる傾向を示している。土層断面はいずれも水田土壌である灰色粘土層の下には、鉄分が集積した茶褐色土が薄くあり、さらに下には10～15cmほどの黒褐色粘質土があって、地山層の黄褐色粘質土となる。

プール部分の8号畦畔の北側では、昭和60年度の調査において検出されたものと同様の畝状の凹凸が検出されている。間隔は10～30cmで幅10cm、深さ5cm前後の浅いもので、明確な線をなさない。8号畦畔に平行する一群と、12号畦畔に平行する一群があり、両者は2つの畦畔がなす角の2等分線上で、ほぼ直角に交わっている。

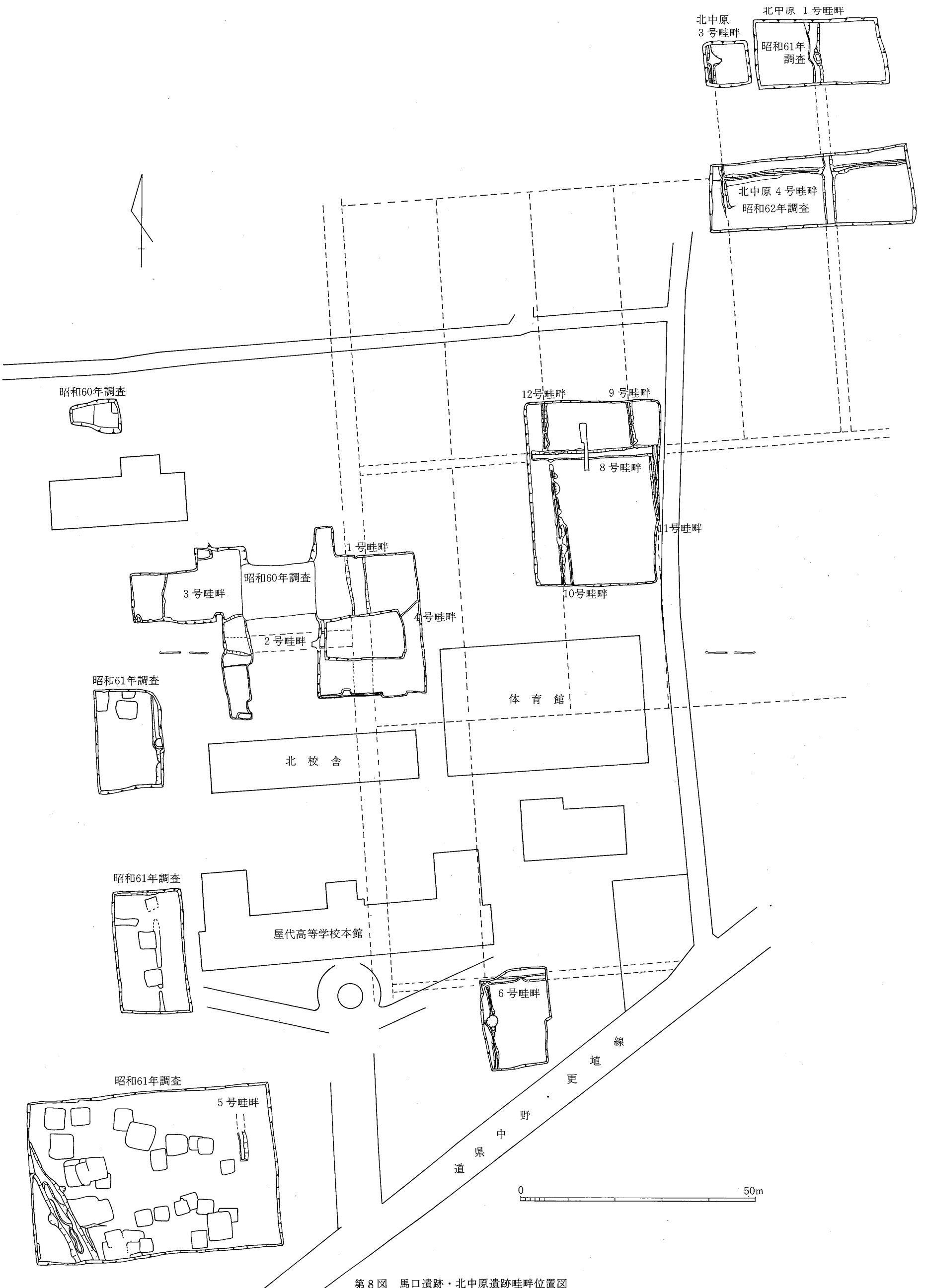
出土遺物は僅かであり、しかも小破片が多い。いずれも水田面となる灰色粘土層とその上部となる暗灰色砂層の接する部分からの出土である。

1・2は自転車置場部分より出土した坏である。1は完形で口径13.5cmを計り、底部は糸切りの後回転ヘラケズリが施されている。また底部と体部の接点も、回転ヘラケズリにより面取りが行われている。2は内外面とも黒色処理され、全面ヘラミガキが施されている。口唇部は肥大し、端部は平坦に仕上げている。3以下はプール部分より出土したものである。3は内面黒色処理された坏、4は灰釉陶器の皿で釉はハケ塗りされている。5～7は土師器の甕でいずれも胴部外面はヘラケズリによって仕上げられており、胴部上半から口縁部にかけてはロクロ痕を残している。ただ6は口縁部を失っているが、外面のヘラケズリは丁寧で、内面は細かなハケで仕上げている。8は須恵器の大甕で、口縁部、胴下半部を共に欠いているが、最大径49cmを計る。胴外面は平行叩きによって整えられており、内面はあて具痕をスリ消すように荒いナデが施されている。

第7図はプール部分より出土した刀子である。先端部を欠いているが全長22cmを計り、茎部には木質が良好な状態で残っている。茎の断面形は1.6cm×0.9cmほどの楕円形を呈しており、茎尻に進むにしたがってやや細身となる。9.5cmほどまでは確認できるが、錆に覆われており長さ是不明である。刃部も錆に覆われているが、折れた部分（中央）で幅1.4cm、背厚0.4cmを計ることができる。



第7図 水田面出土刀子



第8図 馬口遺跡・北中原遺跡畦畔位置図

IV ま と め

屋代高等学校改築に伴う馬口遺跡の発掘調査も3回目となり調査面積は4,700㎡以上に達している。この内水田址部分の調査となった所が2,300㎡以上あり、隣接する北中原遺跡の水田址を含めると3,000㎡以上が調査されたこととなる。これらの調査により馬口遺跡における条里水田址の地割が明らかとなってきた。

更埴条里水田址の地割は、昭和36年から39年に長野県教育委員会によって実施された更埴市条里水田遺構の調査の際、五十^{かり}里川北部地域第408地点において坪の位置が確認され、その内部形態が把握された。それによると坪内は南北に走る9条の小畦畔によって10等分され、さらに東西に走る小畦畔により2等分された長地型と半折型の併用である「長地・半折折中型」と理解された。しかし屋代高等学校周辺の調査からは異なった結果が得られている。

馬口遺跡周辺の調査ではこれまでに、①幅4m、高さ0.5m前後の畦畔、②幅2m、長さ0.4m前後の畦畔、③幅1m、長さ0.2m前後の畦畔、と3種類の畦畔が検出されている。①に該当するのは1号畦畔であり、②には2号・5号・6号・8号・北中原1号の畦畔が該当する。これらの内1号畦畔の西側となる2号・5号の畦畔を除くと、南北に延びる1号と北中原1号畦畔の間隔は約107mとなり、東西に延びる6号と8号の畦畔の間隔は約111mほどとなっていることから①・②の畦畔は坪を画するものであったと思われる。③となる畦畔についてもその間隔を見ると、9号と12号畦畔は19m、10号と11号畦畔は21mとなっており、坪を画すると考えられる畦畔との間隔は1号と7号畦畔は22m、北中原の1号と3号畦畔は22mとなっている。③に該当する畦畔の内、唯一東西に延びる北中原5号畦畔は、坪を画すると考えられる8号畦畔と約56mの間隔を持っている。これらの結果から考えれば、幅2mほどの畦畔によって画された坪内は、南北に走る幅1mほどの畦畔4条によってほぼ5等分され、東西に走る畦畔により2等分された半折型であったと考えられる。

1号畦畔は幅4mと大きく、西側は数10mの水田址をはさんで集落址となっている。西側の水田址においても3本の畦畔が検出されているが、いずれも条里的地割を示していない。したがって自然堤防上においては、この1号畦畔が条里的地割の西限になるものと考えられる。またこれに合せて、幅4mと大型であることを考えれば、1号畦畔は、更埴条里水田址では今まで検出されていなかった条を画する畦畔とも考えられる。

また馬口遺跡周辺の調査により検出された坪は、昭和36年から39年に行われた調査により想定された坪より西へ30mほどずれている。このことから更埴条里水田址の地割には、2種類が見られる、あるいは異なった時代の地割が見られる、といったことが考えられるが、広範囲の調査が行われていない現在では即断できない。

灌水について見ると、坪を画すると思われる②の畦畔と南北に走る③の畦畔との接点は、いず

れも③の畦畔が50cm切断され、水の取り入れ口とされている。水田面の標高差から、西から東へと灌水が行われたことを知ることができる。また、11号畦畔の東側に僅かに検出された溝址は、8号畦畔を切断し、南側へと傾斜している。溝址底部と水田面の標高差から、この溝址は調査区のさらに南側の水田址への灌水に利用されたものと思われ、複雑な灌水が行われていたものと考えられる。

馬口遺跡周辺の水田址は、条里的地割を示す地域の中で最も高位にあたり、現千曲川との比高も5.5mを測ることができる。したがって水田を営むためには、遠方より大規模な用水路によって水引きすることが必要となる。昨年度の調査で集落址中より幅4.5mと大きな溝址が検出されているが、畦畔との方向が異なっており、また水田址に接する部分が調査区外となるため、その関係は明らかとなっていない。この溝址を除けば、主要水路と考えられる溝址の検出はなく、今後の調査により究明していかなければならない大きな問題といえる。

最後に調査にあたっては、発掘調査に全面的に御協力くださった長野県屋代高等学校、作業に参加いただいたみなさまに心からなる謝意を表し、今後の御協力をお願いするところであります。

参考文献

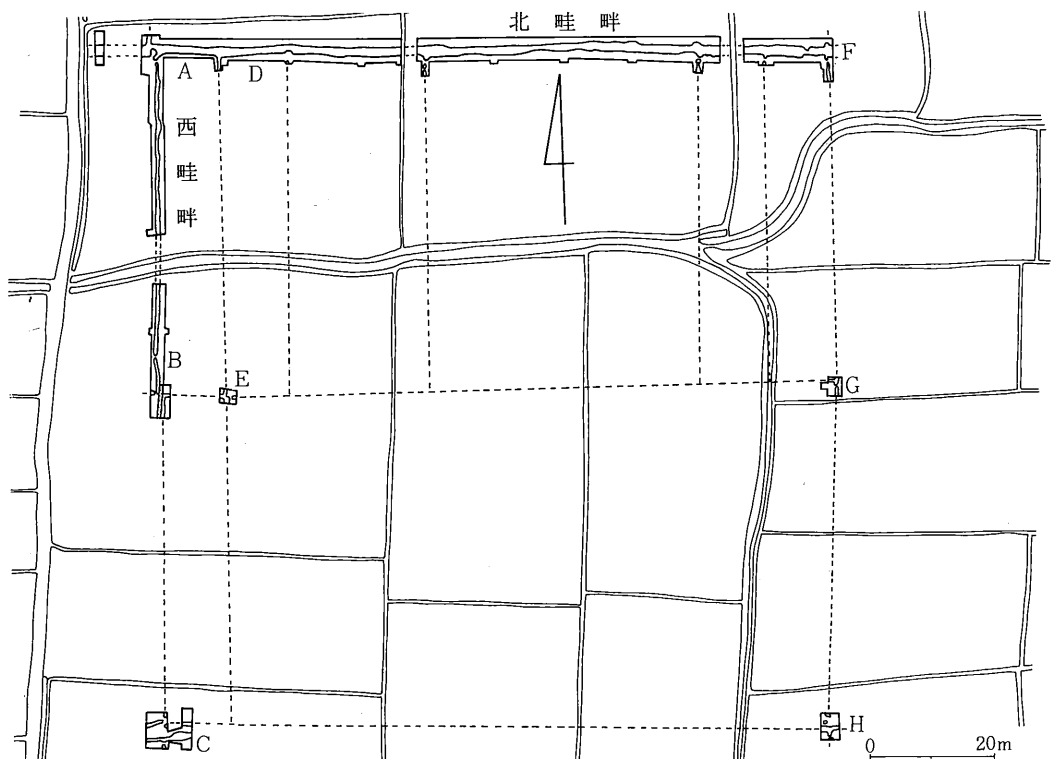
長野県教育委員会『地下に発見された更埴市条里遺構の研究』1968年

更埴市教育委員会『屋代遺跡群 北中原遺跡』1987年

更埴市教育委員会『屋代遺跡群 馬口遺跡』1986年

更埴市教育委員会『屋代遺跡群 北中原遺跡II』1988年

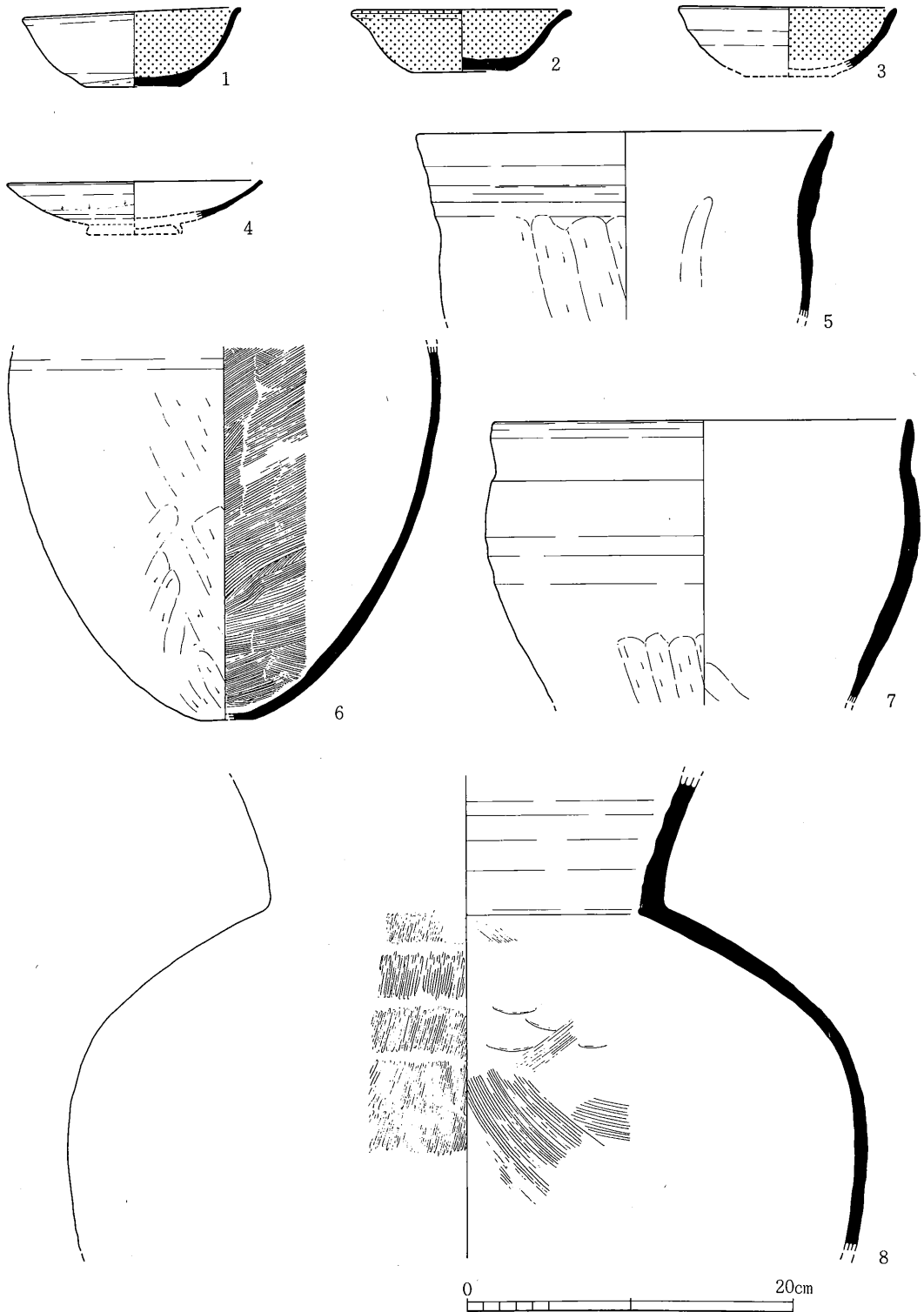
更埴市教育委員会『屋代遺跡群 馬口遺跡II』1987年



第9図 更埴市条里水田遺構、第408地点の畦畔配置
(『地下に発見された更埴市条里遺構の研究』より)

图版 1

水田址面出土遗物



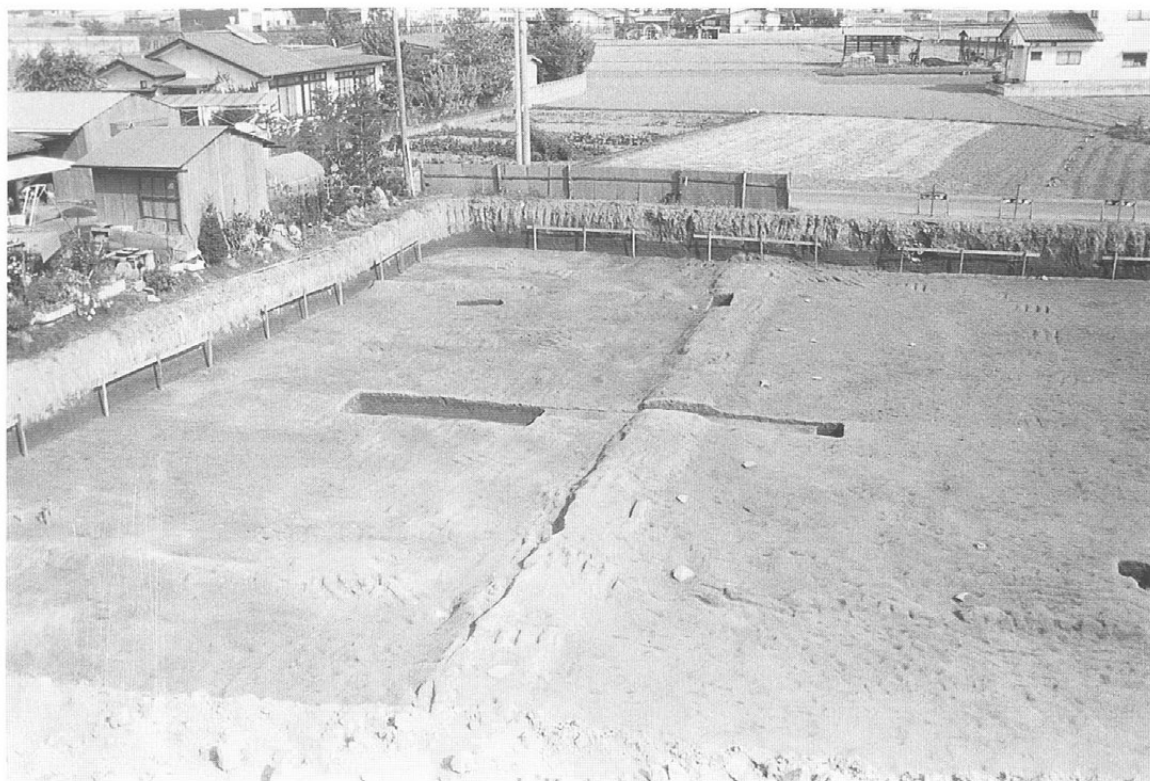


自転車置場発掘調査風景



自転車置場全景

図版3



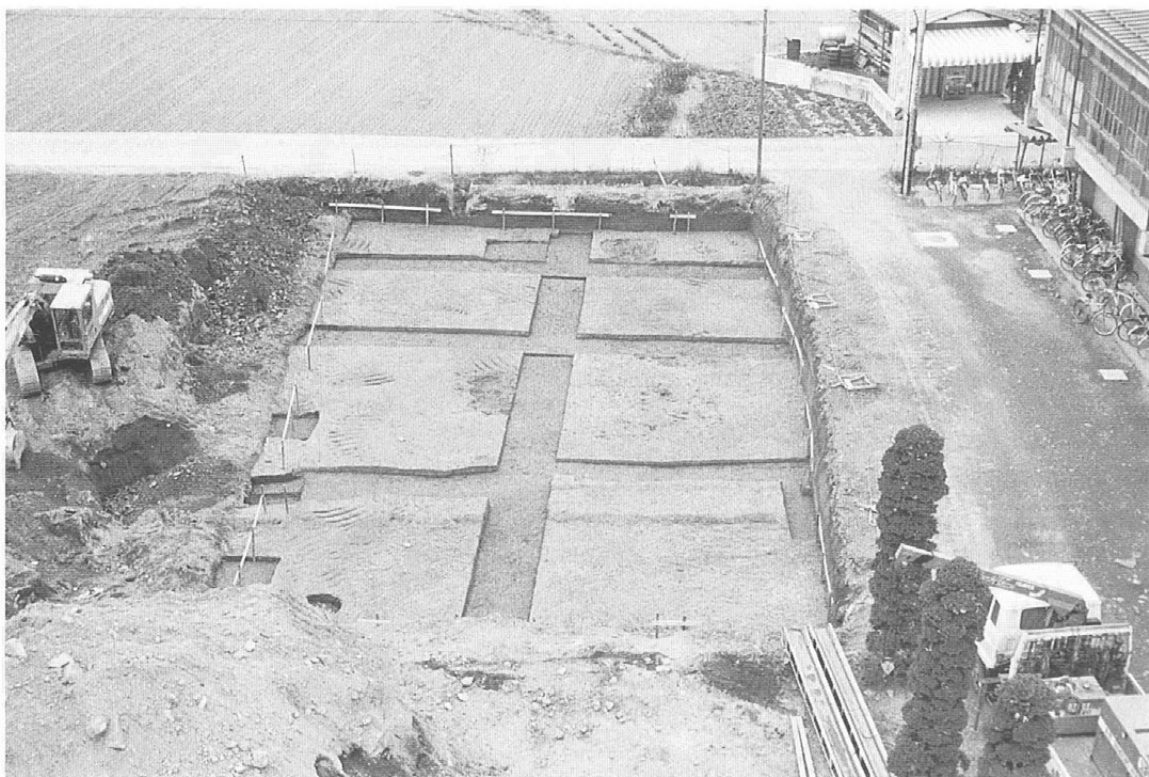
プール北側全景



プール北側水田面下の遺構検出



プール南側全景

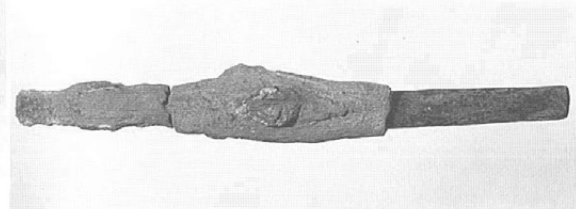
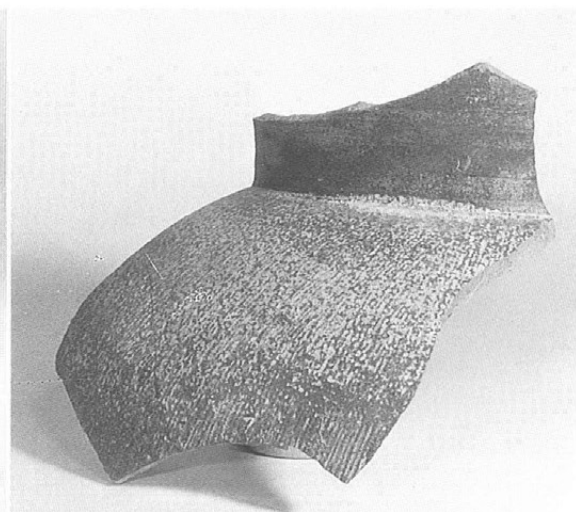
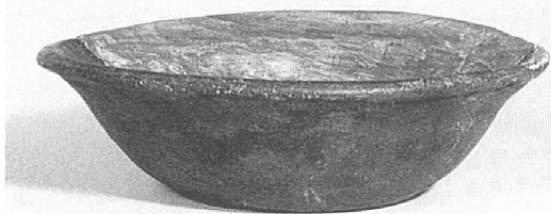
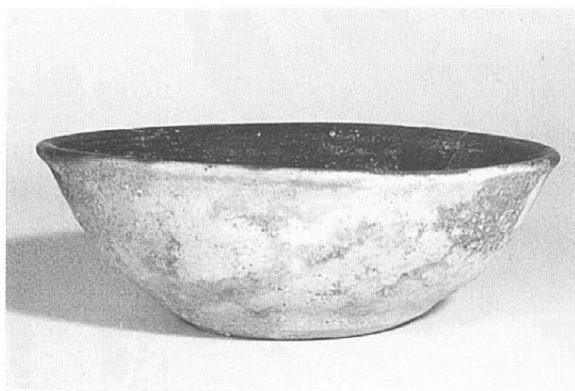


プール南側水田面下の遺構検出

図版 5



11号畦畔東側の溝



水田址面出土遺物

馬口遺跡Ⅲ —長野県屋代高等学校プール等建設に伴う発掘調査報告書—

発行日 昭和63年3月31日

編集 更埴市遺跡調査会

発行 更埴市教育委員会

〒387 長野県更埴市大字杭瀬下762-2番地

TEL (0262) 73-2791

印刷 ほおずき書籍株式会社

〒380 長野市中越293

TEL (0262) 44-0235
